

登録コード	E2553900	開講年度	2026				
授業科目	工芸基礎				担当教員	田中 隆史	
英文授業名	Basic Craft				副担当	猪瀬 昌延	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	集中・	対象学生	
講義室	教育N109		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	制作を通じて、美術工芸に対する深い理解を得ることができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	身近にある工芸を認識、実習を通し工芸の成り立ちを深く理解、その技法を指導できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では、生活の中で使用される道具としての機能性と、アートとして鑑賞される造形性の両面を制作の核とし、素材の特性を生かした表現について学ぶ。 授業前半では金属を用いた制作を行い、金属の性質や加工方法に加え、使用する工具の特性、安全管理および指導上の留意点について理解を深める。 後半では木工による制作を行い、木材の特性や加工技法、工具の適切な扱い方と安全指導の方法について学修する。 各素材に応じた制作実践を通して、素材と工具の関係性を理解するとともに、小中学校美術科において必要となる安全配慮および事故防止を含む実践的な指導力の育成を目的とする。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス、道具の説明 第2回：金属実習1（アイデア出し、型紙制作） 第3回：金属実習2（金属切削加工） 第4回：金属実習3（ヤスリ荒削り） 第5回：金属実習4（ヤスリ中削り） 第6回：金属実習5（紙やすり水研ぎ・腐食加工） 第7回：金属実習6（鏡面加工） 第8回：木工実習1（アイデア出し） 第9回：木工実習2（木取り） 第10回：木工実習3（鋸を使った荒削り） 第11回：木工実習4（鑿を使ったくり抜き） 第12回：木工実習5（紙やすり加工） 第13回：木工実習6（コーティング剤塗布） 第14回：作品講評会 「授業アンケート」						
(6)成績評価の方法	提出作品 工芸素材を中心とした造形課題（制作工程を理解しての造形、表面処理による完成度70％）で評価します。 工芸の研究に必要な資料の準備、制作態度、（遅刻・早退、制作に対する集中力30％）で評価します。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	授業で示した課題の要件を概ね満たしていれば「水準にある」、課題の要件をすべて満たしていれば「やや上のある」すべての要件に加え工夫があれば「かなり上にある」すべての要件に加え工夫をこらし高度に完成していれば「卓越している」得点率による評価基準は次のとおりとする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習（予習）は、当日の実習で扱う素材の特性や基本的な扱い方を文献や教材で調べ、下書きや制作構想をまとめる。 事後学習（復習）は、制作した作品の振り返りや改善点をまとめ、技法や表現方法を理解し、次回実習や授業での活用を検討する。 自主学習時間の目安、単位当たり45時間のうち、授業時間を除いた時間（約22.5時間）を事前・事後学習に充てる。 1回あたりの目安：事前0.5～1時間、事後1時間程度。						
(9)履修上の注意	教材費は別途かかります。 実習の内容は進捗状況により変わります。 本授業は実習科目であり、単位修得のためには、授業時間内の学修に加えて、予習・復習等の授業時間外学修を行うことが必要である。 授業時間外学修も授業の一部として位置づけられており、これを前提に履修すること。 業時間外学修として、各回の実習で扱う素材や技法に関する事前調査、制作構想や下書きの作成、授業後の制作内容の振り返りや記録整理、技法や表現に関する復習等を行うこと。 。 ※本授業は9月5日（土）から9日（水）迄の5日間集中授業となる。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	授業時に対応 連絡先：sikata70@mac.com
【教科書】	使用しない
【参考文献】	授業中に紹介する